

令和2年度開設された黒石高校情報デザイン科はこれまで1期生から4期生までの卒業生を輩出した。その過程において、学習成果は積み上げられてきており、さらなる展望が期待されることから、創立100周年を迎えたこの年を節目に今年度の実績を振り返り、今後の道標を得ることを本資料の目的とする。



写真：「建設業バズプロジェクト」知事報告の様子

青森県立黒石高等学校 情報デザイン科 令和7年度 実践の記録～地域共創・未来創造 2025～



「総括と途上」

I

外郭団体連携事業「共につくる」実践報告（3年 課題研究・デザイン実習Ⅱ）

(1) 「第4回 全国高校生一億円プロジェクト」

～未来の大人が未来を創る！～ in 青森 参加協力

（主催事務局：一般社団法人 未来の大人応援プロジェクト）

※令和7年9月13日（土）～15日（月・祝）

【概要】

昨年度までは五所川原市を舞台に、立佞武多の時期に市の中心街で各校の開発商品の販売ブースを運営や、立佞武多の曳き手としての活動に取り組み、一定の成果を取めたものとし、五所川原市での活動については一度区切りを付け、次の地域で新たな活動を模索していくこととなった。



写真：胸キュンポスター

新年度が明けて間もなく、参加校全体での Web 会議が開催され、今年度の取組方針について議論がなされた。

その結果、三沢市を会場に、「食」をテーマとした活動を3年間かけて行うこととした。初年度に当たる今回は、試行の時期として、大きなイベントに参加するといったことはせず、各参加校の地域の食材を持ち寄り参加者全員で味わったり、三沢の特産物を用いた調理を行ったりして「食」に関する理解を深めた。この他に、県立鱈ヶ沢高校がかつて取り組んできた「胸キュンポスター」を三沢市と連携し、三沢市の食をPRするためのポスター制作活動を5つのチームに分かれて実施し、現地での取材活動から撮影に至るまで各工程を生徒が主体となり実施し、最終的に三沢市をはじめとした多くの来賓の前で成果を発表した。



画像：パンフレット表紙

(2) 「導水管路耐震化（二重化）事業PRのためのデザイン」

（連携団体：栗本・丸勘建設・日本水工設計特定共同企業体、青森市企業局水道部、株式会社K プロビジョン）

※令和7年7月6日（日）「ダム湖ふれあいデー」での同社出展ブース運営補助

令和7年9月12日（金）青森市企業局水道部へのインタビュー調査実施

令和8年2月20日（金）「高校生による建設業バズプロジェクト 知事報告」での成果発表

【概要】

県土整備部が主管する「建設業バズプロジェクト」の一環として実施。今年度黒石市では浅瀬石川ダム～総合浄水場をつなぐ約7kmの導水管を設置します。

これに伴い、同事業の内容を紹介するためのパンフレットやリーフレットのデザイン、水道に関わる仕事の魅力を中学生向けにPRするためのポスター制作を実施。もちろん生徒たちは水道について理解は深くない。そこで事業主が開催したイベントの受付を手伝ったり、青森市企業局水道部でヒアリング調査を行ったりと、水道に関わる人達がどのような信念を持って職務に臨んでいるかを学び、各種デザインの意匠にその想いを反映させた。最終的に青森県知事の前で本チームの一年の取り組み成果についてプレゼンテーションした。



画像：事業紹介パンフレット



画像：マスコット

キャラクター



画像：水道事業PRポスター

(3) 「防災紙芝居の Re: デザイン」

（関係団体：弘前地区消防事務組合）

※令和7年10月21日（火）「あけぼのこども園」

（黒石市）にて防災紙芝居の読み聞かせ実施

【概要】

弘前地区消防事務組合からの依頼で、これまで組合が使用してきた防災紙芝居のリニューアルに取り組んだ。制作した紙芝居は計2種類。「避難訓練」編と「雪害」編の2つである。はじめに、消防士が普段どのように職務に当たっているのか、これを学ぶために、消防署の見学を実施。平素より消火活動や人命救助等の現場にいち早く駆けつけるため弛まず訓練に勤しんでいることを知った。また消防車や救急車の装備を見せていただくなど、クライアントの日常を理解し、デザイン案のヒントとし、制作を進めてきた。完成後は消防署側の取り計らいで、生徒たちを一日消防士に任命し、紙芝居を実際に黒石市内のこども園で読み聞かせする機会を与えていただいた。

メンバー全員の読み聞かせに対し児童からは歓喜の声が上がった。この経験は、メンバー全員にとって、自分たちが作り上げた作品が、実際に社会の中で活用され、人に感動を与えるものとなることを実感する機会となったと同時に、大きな達成感を得る機会ともなった。



上段写真：読み聞かせ会の様子

下段画像：防災紙芝居「避難訓練編」画像



(4) 「Spa×Camp・『おてつたび』プロジェクトのためのデザイン」

(関係団体：合同会社前田彌門)

※令和7年6月21日(土) キャンプ体験会

【概要】

依頼主とは今回で4回目の連携。キャンピングシェルの製造業という形で自身もクリエイティブな仕事に勤む傍ら温泉ソムリエの資格を有するほどの温泉好きでもある依頼主。今年度受けた依頼内容は、青森県に観光で訪れる方たちに、新たな青森の観光の楽しみ方として温泉を巡りながらキャンプを一緒に楽しむ旅のあり方「Spa×Camp」構想を広めたい。というものであった。その想いを形にするため各種広告媒体物のデザインに取り組み、温泉やキャンプ場の地図、関連施設等の紹介パンフレット、ロゴタイプステッカー、冊子の表紙のデザインなど、幅広く商品・製品の考案・制作を行った。

この他に、“お手伝いをしながら旅をする”旅の新しい楽しみ方「おてつ旅」構想 PRのための広告のデザインなど幅広く活動した。また、黒石中学校にて実施した本校の「探究活動成果発表会」でも発表した。



画像：生徒作「青森県の温泉マップ」



画像：生徒作「ロゴタイプステッカー」

(5) 「原子力発電の印象と事実のギャップを精査するための広告媒体物の制作」

(関係団体：日本原燃株式会社)

※令和7年6月28日(土)「六ヶ所原燃PRセンター」見学

【概要】

同社とは昨年度に引き続き2年目の連携となる。昨年度は同社の社内広報媒体物のデザインを任せられたが、今年度は社外へ向けた広告の考案・制作を担うこととなった。そこで今回は「原子力発電に不信感や恐怖を抱く人は、どのような広告であればそこに書かれた情報を信頼できるのか」という視点に立ち、より多くの人の心に届く広告媒体物の完成を目指した。

そのため同団体の関連施設である「六ヶ所原燃PRセンター」を見学し、自分たちの目で見て、原子力発電に対するイメージをはじめに確認させた。その後、各々の印象の変化や、何をきっかけにそのように変化したかを考えさせ、各種デザイン作品に落とし込ませた。ある生徒は自然の中で発生している放射線量より、施設が出しているものの方が低いことに気付きを得て、これを漫画で表現し、一般人が読むだけで簡単に同社の安全性について知ることができることを企図し、制作した。また、同社が外部向けのイベント等で配布できるノベルティや、同社の取り組みについて解説するためのポスターを制作したりと様々な案を提示した。

右画像像：施設が発する放射線量の安全性を伝えるための漫画作品



写真：「六ヶ所原燃PRセンター」見学時の様子



(6) 「黒石の水をPRするための各種デザイン」

(連携団体：津軽広域水道企業団、弘前大学教育学部)

※令和7年7月6日(日)「ダム湖ふれあいデー」での津軽広域水道企業団出展ブース運営補助

※令和7年8月1日(金)浅瀬石川での水生動物の採取及び実験(at:浅瀬石川、弘前大学教育学部)

[概要]

今から約15年前、当時黒石では黒石の水の魅力をPRするパンフレットがあった。パンフレット内には、市内の湧き水を汲むことができる場所や、黒石の水を使用した地酒や料理の特集が掲載されており、黒石の水を扱った商品の魅力を、当時手に取った人が存分に知ることができた。しかしこのパンフレットは現在入手が困難なため自分たちの手で再度黒石の水をPRするためのデザインを考案することにした。

フィールドワークを実施し、街の湧き水や浅瀬石川の水を採取し、水質検査を行ったり、市販の水の水質と比較したり、商品化に向けて湧き水でサイダーを作って試飲したりした。また弘前大学教育学部名誉教授大高先生の協力により、浅瀬石川での水生動物の採取や、水生動物から黒石市の水質を検証する実験に参加する機会をいただくなど、様々な分野の知識を複合的に学び合わせ、これらの結果を最終的にWEBデザインという形でまとめ上げた。



画像：「黒石の水処」
パンフレット
(上) 表面
(右) 裏面



写真：水生動物を観察し、水質を調査する様子

(7) 「青森の偉人・名景等の魅力を発信する新しいゲーム開発」

※令和7年7月25日(金)ボードゲーム体験会実施

[概要]

昨年度の課題研究にてあるチームが研究内容の一部としてボードゲームを開発したことに端を発し、今年度はボードゲームを単体で制作することとなった。

当初、本県の偉人や有名な景色をモチーフとしたものを制作することとしていたが、市販のボードゲームのテストプレイやルールを考案する過程において、「食」をテーマに制作する方が、プレイヤーの関心を高められることや、現在ボードゲームを愛好するプレイヤーが好むルールを活用できることを鑑み、テーマを変更した。

ルールの考案は予想以上に難儀したが、十分に内容の練られた作品に仕上がった。今年度は完成をもって終了となったが、今後



写真：実際の制作の様子



画像：ボードゲームの表紙デザイン

この作品が後輩たちの手によってブラッシュアップされ、ボードゲームを実際に開発しているメーカーにプレゼンテーションするなどし、商品化まで進めることができれば良いのではないかと考えている。あるいは本作品をプロトタイプとし、より精度を上げ、県内各地の道の駅等に設置してもらい、施設の来訪者や観光客に実際にプレイしてもらう機会に繋げるといったことも考えられる。本取り組みは中郷中学校にて実施した本校の「探究活動成果発表会」でも発表した。

(8) 黒石市議会議員とのトークセッション会の実施（3年生）

（連携団体：黒石市総務部、黒石市議会議員、黒石市議会事務局）

「黒石市の課題をデザインで解決するために」

発表生徒：江利山ひより、木村梓希、雪田姫李、佐々木唯菜、澁谷陽南詩、岡崎義太郎（3年）

黒石市議会議員13名に対するポスターセッション

※令和7年12月12日（金）情報デザイン科展会場にて実施。

※令和7年7月10日（木）実施に先立ち、発表に向けて黒石市役所にて「黒石市の課題について」のヒアリング会を実施

【概要】

これまで本校情報デザイン科は、多くの場面で黒石市より連携の場を頂戴し、様々な取り組みを実践してきた。そこでこれらの経験も踏まえ、今回はデザイン実習Ⅱの授業において、「黒石市の課題をデザインで解決するために」というテーマのもと情報デザイン科3学年が作品制作に臨むこととなった。そこで最初に、黒石市総務部総務課の御協力のもと、事前に生徒から意見聴取した、生徒が考える黒石市の課題に基づき、市の関係部署へのヒアリング調査を実施。

当初はこの内容をもとにデザインしたものを展示するはずであったが、かねてより黒石市議会から高校生と連携してまちづくりを進めることはできないか、という話をいただいていたことから、情報デザイン科展にて市議会議員とのトークセッションを実施することとした。

プレゼンターの選定に当たっては、様々なアプローチができるよう、観光、郷土など、広域的な内容から、黒石市の教育や施設の活用など、多種多様なテーマを用意した。当日発表に当たった生徒は市議会議員を前に相当に緊張を覚えながらも自分の考えをしっかりと伝え、議員からの質問に対しても堂々と回答を返した。本取り組みは一般的に商品や製品ができあがり、これを完成品として扱う「モノ」のデザインばかりではなく、企画や新たな構想を作り出す「コト」のデザインが主体となるため、形として作品を提示できないものもあり、一部議員の皆さんを困惑させた部分もあったが、高校生のため熱心



写真：7月10日の「ヒアリング会」の様子



写真：12月12日「トークセッション」の様子

に聞き、質問も積極的に行ってくださいました。

また、生徒にとっても、普段話すことのない大人との会話を体験できる場ともなった。

本トークセッションの実施に当たっては先述した黒石市総務部総務課及び黒石市議会事務局の御協力なくして実現はあり得なかった。このような機会を与えてくださった、黒石市の2部署にはこの場を借りてお礼を申し上げます。

Ⅱ 「依頼事業に学ぶⅠ・Ⅱ」(2年 デザイン実習Ⅰ・コンピュータグラフィックス)

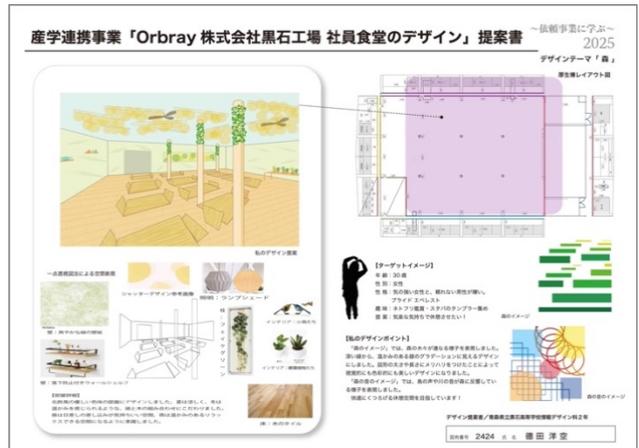
(1) 「依頼事業に学ぶⅠ～Orbray 株式会社黒石工場社員食堂のデザイン～」、産学連携共同制作「森プロジェクト」
(依頼団体：Orbray 株式会社黒石工場)

※企業側7名によるプロジェクトチームとの2年生生徒38名によるワークショップ並びに画家小林志保子氏監修協力による社員食堂配膳口開口部分へ設置のロールスクリーンのデザイン制作

プロセス1：ワークショップ 共同制作による抽象表現



▼授業で取り扱った空間デザイン提案例



当該企業とは令和5年度、代表取締役社長 並木里也子氏の講演会開催、さらには当該企業キッズパンフレットの制作を担当し、産学連携事業としてその関わりを深めてきた。

今般、「黒石工場社員食堂を一新したい」旨の依頼を受け、空間のデザイン提案をデザイン授業の課題とすることとした。企業側からの提案でデザインテーマを「森」とした。

授業では「透視図法の描法」や「イメージターゲットの構築」等の学習を通じて右掲載のような提案書を作成したが、その一方で「企業側プロジェクトチーム(PJT)」との共同制作についての提案があり、そのことへの対応として毎年実施している1年時特別授業での表現手法「Square Garden」による食堂配膳口前ロールスクリーンを制作・設置することとした。監修協力は特別授業講師の小林志保子氏(画家)、技術協力として川端美術株式会社様に加っていただくこととなった。

【ワークショップ等／制作の記録】

令和7年3月14日(金)：工場見学実施 写真①

令和7年6月12日(木)、7月10日(木)、8月28日(木)

：ワークショップの実施 写真②、③、④

令和7年10月23日(木)：補足作業⑤

令和7年11月1日(土)、2日(日)：まとめ作業 次頁



プロセス2：コンセプトの立案
3面のスクリーンプランを連続する全体として捉え、森の「春夏秋冬」を表現するという方向性を導き出した。



プロセス3：制作とブラッシュアップ、推敲を重ねる

素材の配置を変えながら季節ごとのイメージの深化を確かめていく。一度出揃った成果について再度確認作業を行ったが、「画一的な格子の並びに対して一部を統合する部材を意図的に挿入する」ことが検討され、変化と統一のある作品へと昇華した。



【作品銘板への記載内容】

産学連携プロジェクト

「Square Garden ～森を眺める～」

黒石高等学校情報デザイン科2年生

× Orbray 株式会社 森PJT (2026年制作)

監修協力：小林志保子 (画家)

企画立案：菊谷 哲 (黒石高教諭)

構想支援：山内 謙司 (25年度工場長)

技術協力：川端美術株式会社

プロセス4：活動のまとめ

印刷・施工の業者発注

令和8年3月23日(火)

設置 右写真

令和8年3月27日(金)

お披露目会の開催

- ・セレモニー・お披露目
- ・感謝状授与
- ・デザインプランナー贈呈
- ・銘板の制作

※全幅約6,500mm

高さ約2,800mm

4枚のスクリーンで構成
スクリーンは四季のグラデーションを表す。



(3) 「依頼事業に学ぶ（令和6年度からの継続事業）～黒石高等学校×弘前地区消防事務組合エンブレム・ロゴタイプデザイン」（依頼団体：弘前地区消防事務組合）

エンブレム採用作品：常田莉亜良（3年） 図② ロゴタイプ採用作品：山口美羽（3年） 図①
 ※令和7年6月11日（水）、コンペティション実施 上方写真は打合せ及びコンペティションの様子
 令和8年2月26日（木）東消防署新はしご車配備報告式開催 下方写真は実際の実装配備車両



本事業は令和6年度からの継続事業である。「伝わる」広報への転換や共同作業による「地域との連携」、「弘前消防ブランドの確立」等を目指してのロゴタイプ、エンブレムの制作依頼であり、当時の本科2年生徒がデザインを担当した。

今年度、ブラッシュアップのために再度デザインコンペを開催するとして（写真①）、それを受けて7名の生徒がコンペティションに臨んだ。

審査結果は冒頭の通りであるが、令和8年2月、はしご車に実装配備され、今後は管轄の全ての関連車両に順次活用していくことになるという。この日は「はしご車」の他に「広報車両」も披露された。本科の大きな実績の一つである。

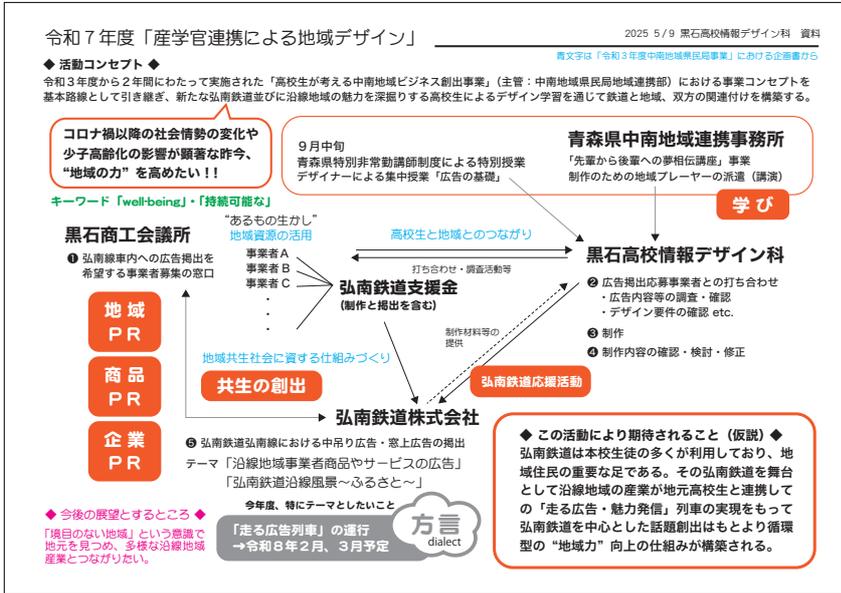
令和7年度「産学官連携による地域デザイン」事業 実施の記録

(2年 デザイン実習Ⅰ・コンピュータグラフィックス 1年 グラフィックデザイン)

(連携団体：黒石商工会議所、弘南鉄道株式会社、中南地域連携事務所)

※地元17事業者及び団体等の企業広告の制作並びに弘南鉄道弘南線での広告掲出列車の運行

運行期間：令和8年2月1日～3月1日、3月2日～30日



超お得! 弘南鉄道車内広告 掲出希望社募集!

特別企画「走る広告～弘南地域魅力発信列車の運行～」
 主催/制作：青森県立黒石高等学校 情報デザイン科
 協力：弘南鉄道株式会社、青森県中南地域連携事務所、黒石商工会議所

◆この活動により期待されること(仮説)◆
 弘南鉄道は本校生徒の多くが利用しており、地域住民の重要な足である。その弘南鉄道を舞台として沿線地域の産物が地元高校生と連携しての「走る広告・魅力発信」列車の実現をもって弘南鉄道を中心とした話題創出はもとより循環型の「地域力」向上の仕組みが構築される。

▲左図表／本事業の企画フロー図 右図版／昨年度の成果による事業広報用ポスター



(1) 令和7年6月2日(月)

黒石産業会館に黒石商工会議所新岡常雄会頭を訪問。代表生徒から、「先輩たちは、令和5年度、令和6年度と非常に多くの広告制作を手掛けました。そして、この事業がよりレベルアップすることを期待して後輩に引き継いでくれました。今年度はより一層印象に残るような実践活動を行いたいと現在準備をしているところです」と約900件にのぼる商議所会員への情報周知を依頼した。(左写真)

(2) 令和7年9月18日(木)

中南地域連携事務所主催による「先輩から後輩への夢相伝講座」の実施。今年度のキーワードとして「方言の活用」を挙げた。地域資源としての「言葉」に注目し、方言研究者である渋谷伯龍氏を講師としてお招きしての講座は、方言の豊かさや面白さに触れながら、方言理解につながる講座となった。(右写真)



(3) 令和7年10月6日(月)

～23日(木)

今年度参加事業者は17事業者19部門の広告制作となったことから、2人1組で19班を組織し、1班1事業者のヒアリングを実施した。生徒は事業終了の際、「ヒアリングとコミュニケーションの重要性」を痛感したという。(左写真)



▲広告制作企画書例



▼実際の広告掲出状況



上左作品4点は本科1年生制作による作品「ふるさと再発見」である。本事業開催当初から、地元事業者のPR広告とともに「～弘南地域魅力発信列車の運行～」と謳わせていただいております。「たんげ、あずましい。」や「ごでまってるほんで」等、方言も積極的に活用され、巧みに構築された2年生事業者広告とバランスよく配置することができた。

高校生によるこれらの広告は車内に確実に彩りを添え、車内に活気を与えている。取組の様子は第35回全国産業教育フェア福島大会において詳細な作品展示を行った。テーマを「地方鉄道沿線における産学官連携事業実践報告」としているが、ぜひホームページ等でその内容及び取組について確認していただければ幸いです。

▼さんフェア展示風景 広告事業活動のまとめ ▶



IV

令和7年度の官学連携事業紹介

- (1) 黒石りんご祭りイメージキャラクター「二代目 宮美あかね」の
開発（連携団体：黒石市商工課、りんご祭り実行委員会）
二代目採用作品：北村希明（2年）



「宮美あかね」プロフィール
身長：162cm
体重：●●●kg
誕生日：9月11日 ※年 秘密
出身地：青森県黒石市

情報デザイン科内 募集!
二代目 ●●●●●
黒石りんごまつり イメージキャラクター
**宮美あかね
の開発**

応募条件：黒石高校情報デザイン科
1,2年生であること

作図条件：
(1) デザインできる範囲～服装、ポーズのみ変更可
(2) 全身を表現 ※イラストに限定されない
(3) デジタル表現であること (解像度 300ppi)
(4) 明るく快活な洋装女子であること

宮美あかね プロフィール：
●●●●●年9月11日 青森県黒石市生まれ
身長：162cm 体重：秘密

第34回黒石りんごまつりは令和7年11月22日、23日開催予定

◆8月下旬(予定)
コンペティション開催
※審査は黒石市商工課、初代開発生徒
※応募は11月17日(月)まで

◆採用者には
ポスターの制作を
依頼します。

令和6年度、黒石市商工課からの依頼により黒石りんごまつりイメージキャラクター「宮美あかね」が誕生した。当該イベントは毎年開催されるものであることから、「毎年キャラクターは更新・開発される」という発想で、「二代目 宮美あかね」作品を募集した。結果、1、2年有志9名から10作品の応募があり、初代開発者を担当した3年生徒により第1次審査を実施、その選考された2点を商工課で最終選考していただき、採用作品が決定された。



等身大パネルは現在、産業会館に展示されている。左が初代。▲

- (2) 令和8年6月28日執行
黒石市長選挙PRポスターデザイン選考審査会(2年)
令和8年2月19日(木)
採用作品：北村希明 右図版

※ここに掲載した作品は、全作品中の一部の作品です。



**君の
票で
未来は**

黒石市長選挙

- 投票日時 令和8年6月28日(日) 午前7時～午後6時
- 期日前投票(期間) 6月22日(月)～6月27日(土)

(投票時間) 午前8時30分～午後8時(※一部を除く)



「若い世代に対して選挙を身近に感じさせる」、「気軽に投票できる」、その2つのイメージで、6月実施の黒石市長選PRポスターの制作依頼があり、掲載作品をはじめとした14作品がエントリーされた。選挙について真剣に考え、完成度の高い作品が散見され、選考委員でもある高樋市長は「今後は有権者の一人としても、関心を広めてほしい」と講評・総括された。

(3) 「くろいし市議会だより」表紙作品の提供 ※令和5年度より継続実施

令和5年度：作品「くろいしの文学碑」

※3期生1年時の制作作品提供

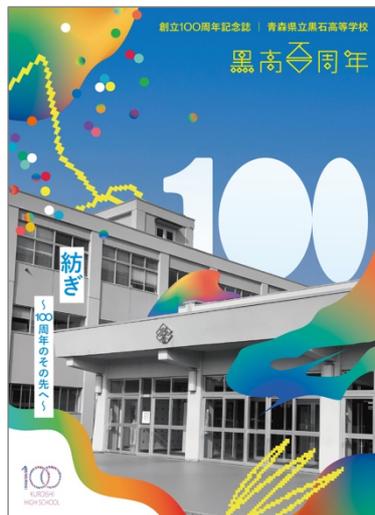
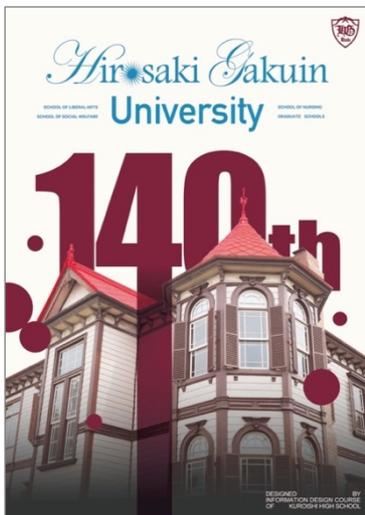
令和7年度：作品「ふるさとを、表す。」

※5期生1年時の制作作品提供

本科の前身である黒石商業高校でも黒石にゆかりのある作品制作がなされた際には地域振興を目的として積極的に作品提供を行ってきた。近年では特に1年時で制作の彩色演習課題がそれにあたり、その提供のご縁から、黒石市議会と連携した学習活動が可能になってきた。「地域共創・未来創造」を謳う本科にとって、行政とともに地域課題とその解決を考える契機として、その入口に位置しているのがこの冊子群である。



V その他の主な依頼作品

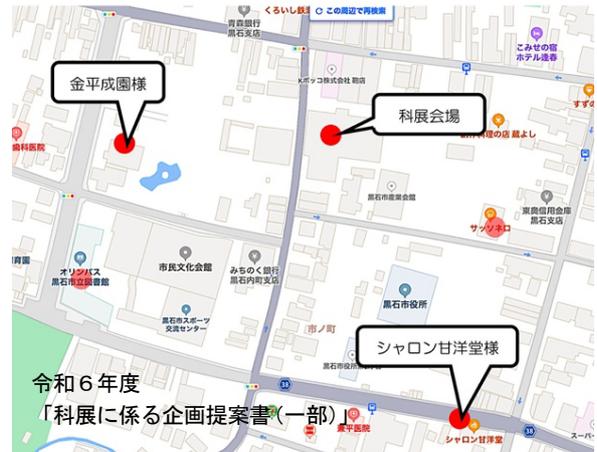


▲図版左から／黒石自動車教習所PR看板デザイン（小山内菜乃・3年）、弘前学院創立140周年記念ポスター、黒石高校創立100周年記念誌装丁デザイン（白戸花音・2年）

令和7年12月12日（金）～15日（月）

黒石市役所のまちセンターイベントホール・多目的ホール その他併催企画

テーマ「Where Diverse Perspectives Meet ～異なる視点が出会う場所～」



令和6年度、第3回情報デザイン科展の開催にあたって、従前の弘前市開催から黒石市開催としたことには大きく2つの理由がある。最大の理由は弘前会場の閉館に伴うものであり、時を同じくして同年10月に新施設「わのまちセンター」が黒石市に開館したためである。

令和6年11月、新施設での開催の構想に取り掛かるべく実地見学したところ、平日は市役所への所用での来館は見られるものの、休日は人通りは少なく閑散としており、科展開催には集客の方法を真剣に考えなければならない状況に直面した。

そこで、会場となる施設自体が賑わいの創出を目的としていることから、「科展を基点としたわのまち創出」～黒石市市ノ町、内町、前町の3点を結ぶ～という企画を立てさせていただいた。それぞれの町名は科展会場、金平成園、シャロン甘洋堂を結ぶというものである。※右上地図参照

この企画立案を提出し、このことから黒石市教育委員会様、シャロン甘洋堂様をはじめとする地元商店のお力添えにより、ここに記載の「金平成園冬の特別展示」並びに「わのまち創出カード」が実現することとなった。令和7年度は生徒によるSNS発信という戦略的広報の手法も取り入れて、さらに集客に力を入れた科展開催に発展しつつある。今回展来場者は417名であり、予想以上のご来場をいただいた。

(1) 併催企画「金平成園における冬の特別展示」～令和6年度と令和7年度開催



青森県立黒石高等学校 情報デザイン科「連携企画」(案)

2025 11 / 21

テーマ 「異なる視点が出会う場所」

～名勝「金平成園」と小型グラフィック「折紙ペンギン」との出会いによる新たな空間体験の創出～

1 企画の経緯と趣旨

黒石高校情報デザイン科は、「地域共創」というキーワードを掲げ、産学連携をはじめとした外部機関との連携による学習活動を積極的に展開しているところです。

その学習の集大成として、毎年「情報デザイン科展」を開催しており、昨年度からこれまで開催の弘前市会場から昨年新設の黒石市役所「わのまちセンター」に会場を移し、黒石市での開催といたしました。

昨年度は、黒石市市制施行70周年記念ということもあり、特別企画として名勝探訪「金平成園 冬の特別公開」を黒石市にお願いをし、本科生徒の作品展示と併せて12月14日(土)、15日(日)無料開放していただくという特例措置をいただきました。

「わのまちセンター」を中心とした賑わい創出は本校科展の一つの目的ではありますが、今年度の活用は相応しい作品が見当たらず、なかなか難しいと感じておりましたところ、本展ポスターで活用されているペンギンとのコラボレーションが可能なのではないかと今回の企画案を提案させていただきました。

本科は情報資源の価値の発掘と、その有効活用を目指しています。国の名勝「金平成園」の空間と子供から大人まで誰にでも作成できる「折紙」という造形手法、さらには「古来からの豊かな色彩」と「現代的な鮮やかな色彩」との対比の中に新たな価値発見並びに価値体験をすることが今回企画の趣旨になります。

2 企画概要

- (1) 本校情報デザイン科に在籍の学生103名が「折紙ペンギン」を複数個制作する。
- (2) 制作した作品を「離れ」の空間に正方形、もしくは円形によって敷き詰める。
- (3) 黒石市の文化的要素の奥深さを実感していただく機会とするとともに新たな空間体験の機会とする。

▲令和7年度 金平成園冬の特別展示「企画提案書(一部)」



前ページ冒頭写真は令和6年度の金平成園展示の様子である。当園「離れ」を利用させていただき、歴史的価値のある古物等を描写した2年生作品展示を行った。作品内容の質の高さと空間の趣が見事に融合し、格調高い展示を実現することができた。

一転して令和7年度の展示では「折紙ペンギン」1,915羽による直径3メートルの正円2個で今回展のテーマそのものを表現した。展示者は実行委員が担当し、「鶴の間」(左図)、「金の間」(右図)に圧倒的なペンギンの群れが出現した。現代的色彩と古来から現存する厳かな色彩が見事に融合した。

(2) 併催企画「わのまち創出カード」の発行



令和6年度「わのまち創出カード」



▲わにサポ対象イベントステッカー



▲第4回情報デザイン科展メインビジュアル

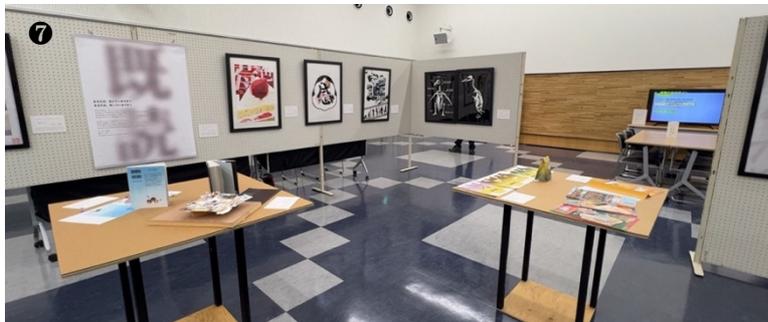
黒石には「マッコ」文化がある。上掲の「わのまち創出カード」は科展会場でカードをもらい、該当の店舗でサービスを受ける、そのような仕組みを展示期間中に設け、黒石の周遊を促す活動になることを目的としたものである。弘南鉄道生活応援きっぷ「わにサポ」協賛イベントとして申請し、弘前からの集客促進も企画した。

(3) 展示内容



第1会場 多目的ホール展示内容

- ① 「青森りんご植栽 150周年タイアップ企画～より親しまれ、愛される『りんご』であるために～」
- ② 黒石りんご祭りイメージキャラクター「二代目／宮美あかね」の開発
- ③ 外郭団体連携事業「共につくる」実践報告等展示風景
- ④ 外郭団体連携事業「共につくる」実践報告
- ⑤ 産学官連携事業「広告をつくる」実践報告
- ※内容は第35回全国産業教育フェア福島大会作品展示
- ⑥ 令和7年度「広告をつくる・カンパニー紹介」パネル



科展に係る令和7年度企画

【企画1】

「わのまち創出カード」の発行 8店舗協力

【企画2】

金平成園「冬の特別企画」無料開放

13日(土)、14日(日) 10:00~15:30

【企画3】

黒石市議会議員とのトークセッション会

12日(金) 14:00~15:10

第2会場 イベントホール展示内容

- ① 産学連携事業等、イベントホール展示風景
- ② 中央/特別授業展示「私の Square Garden を作ろう」 奥壁/「依頼事業に学ぶ I・II」
- ③ 「WEB デザイン/動画制作/3D CG 表現~多様なデジタルメディアによる自己表現~」公開風景
- ④ 「ブランディング」
- ⑤ 「黒石市の課題をデザインで解決するために」
- ⑥ 「ふるさと再発見」
- ⑦ 「デザインの扉を開くグラフィック」

◆ 「第4回情報デザイン科展」アンケートより ※一部抜粋

○毎年見に来ていますが、年々パワーアップしているように感じます。先輩から後輩へ、受け継がれているもの、地域の課題解決に取り組んでいるもの等、素敵な学びをしているんだなあと感心させられます。これからも期待しています！

(40代・女性)

○素晴らしい情報デザイン科展を拝見させていただきました。どれも色鮮やかで生徒さんたちの豊かな感性と技術力の高さを感じさせられました。目を引くロゴや文字の配置、計算された色彩の組み合わせには深い工夫が凝らされていました。将来のクリエイティブな仕事に直結する実践的な学びの場だと思いました。生徒さんたちが社会でどのように活躍されるのか非常に楽しみです。(40代・女性)

○地域の学校は、地域の中心で輝くべし。いろいろな方々や機関、団体とコラボして楽しんでください！(60代・男性)

○黒石市の課題をデザインで解決するために、の企画はこれからの黒石の発展につながるようなものばかりで、とてもいい企画である。技術の高さはもちろんだが、発想の豊かさが素晴らしい。この力を今後も多方面で活かしていきましょう。(60代・男性)

○商業高校の頃から黒石市に貢献してくださっているとと思っていました。それが形になって作品や商品になるために高校生の皆さん一人一人が、それぞれが考え、思いを伝えるために努力していることが伝わってきました。個人的にも素晴らしいと感じるデザインがあり、感激しました。企画案もそれぞれ考えられていて、思わず笑ったり、感心したり、楽しい時間を過ごせました。(60代・女性)

○はじめに受付スタッフ生徒たちの品の良い対応に感激しました。数年前、商工会の月刊誌の表紙を見て以来、折に触れ気にかけていたものです。今回作品をじっくりと見る機会にて、やはり色の使い方や目配り、言葉の表現、伝統なのか黒石市民の環境なのかこれからも更に広い世界に羽ばたいてもらいたいと思います。(70代・女性)

○色々な作品を見て、学校と企業との連携にとっても感動しました。学生の中からこんな素敵な経験を学べること、すごく自分の実績になるなど、羨ましく思います。それぞれの個性を生かしたデザインを見ることで、学生さんたちの将来がととても楽しみにになりました。(30代・女性)

○私はしょうらいイラストレーターなど、絵に関係がある職につきたいと思ってこのたび見にきました。思っていたよりも10倍、100倍すぎて、おどろきました。アニメーションやイラスト、なにからなにまでレベルが高く感動しております！みなさんの作品には、とても言葉ではあらわせないほどの気持ちが伝わってきました。(10代・女性)

○今日は普段あまり興味を持っていなかった若い方のデザイン、作品に触れることができ、とても感動しました。孫の作品も実際に観る事もでき、神経をすり減らして毎日帰宅している訳が少し理解できたように思います。これからの黒高の活躍を期待します！(年齢不詳・在籍生徒ご家族)

※アンケートのご協力、ありがとうございました。

●第4回生から第6回生までの集合写真(2025年11月25日撮影)

